

作文の部 高校生の部



安心を支える力

愛知県立稲沢高等学校 農業土木科 2年
藤岡隼人

2011年、3月11日。この日のことを私は決して忘れません。地震に伴う津波が町を飲み込み、原発は炉心融解、建屋爆発を起こし、放射性物質が広範囲に飛散しました。放射能による汚染、そして緊急避難。震災による原発事故は何気ない私たちの日常から多くのものを奪いました。当時の私は、ただ漠然とした不安をとて強く感じていたことをいまもはっきりと覚えています。

私は、稲沢高校の農業土木科に進学し、今は測量や施工を中心とした土木技術に関する勉強をしています。入学前のイメージとは違い実習では、農業高校らしい野菜づくりは一切しません。測量実習では距離や高さを測り、電卓でひたすら計算。製図の実習は図面を写すトレースが中心です。2年生になって角測量や水準測量、土木材料の実験なども行うようになりましたが、基本的には同じことを繰り返し行うことがとても多い気がします。そうした実習をとおして私は、少しずつでも確かな土木技術を身につけて、将来は土木建設業界で物づくりのできる仕事に就きたいと考えるようになりました。一言で土木の仕事といってもいろいろあります。私が在籍している農業土木科では農業に関する農地や水路、川の整備や道路、橋の建設に関わる仕事について学んでいます。また、同じ土木技術を使って私たちの生活に必要な上下水道やエネルギー施設など都市のインフラを整備する仕事もあります。私は、できればより多くの人の生活を支える町づくりに関われる仕事を目指したいと考えています。それは、ある授業で環境エネルギー問題について学んでいるときにふと気づいたことです。原発事故から3年経つ今も、全国にある原子炉は再稼働していません。これまで、絶対に安全だと言われてきた原発の恩恵にあずかってきた私たちは

そのコントロールに失敗し、原発を止めるという世論が一気に広がったからです。

それは、かつて私も経験した大きな不安を、世の中の多くの人も感じたからかもしれません。もし、同じことが起きたら…という、「不安」です。私たちは日常の中で、当たり前となってしまう何気ない生活を失うことに、とてもおおきな不安を感じるのではないのでしょうか。だからこそ、私は、より多くの人に安心してもらえるような町づくりを土木の仕事を通してしっかりと作っていきたいと思うようになったのです。土木の仕事だからこそできる町づくりにとても魅力を感じています。

私は、より良い生活環境について学ぶため、今年からプロジェクト活動に参加しはじめました。地元NPO団体と環境調査を行ったり、保全の一環として無農薬水田の除草作業をおこなってきました。普段の実習では体験できない農作業も自然にふれあうよい経験でした。そのとき、化学農薬を使わずに栽培することでお米はおいしくなり、水田生物もすこしずつ多くなることを教えてもらいました。今はまだ、調査段階ですが「ゆくゆくは蛍の舞う地域作りを目指している」と熱く力説され、なるほど、そういう町づくりもあるんだと勉強になりました。これからの土木建設業において、環境問題は避けて通れません。地域環境に配慮した土木建設工事を行なうことが大切になってくると思います。

私は、まだまだ土木について学び始めたばかりです。確かな技術を身につけ、生活に関わる環境についての知識を深めることで、いずれ地域の人々が安心して生活できる町づくりを支える力になりたい。それが、土木建設業を目指す私の夢です。